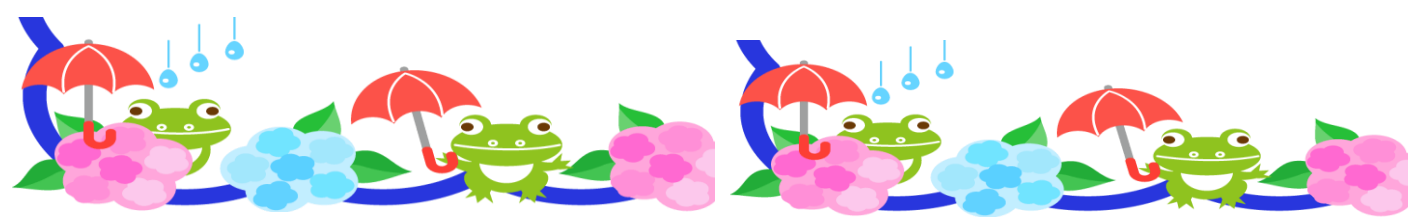




6月号担当：ふるみ

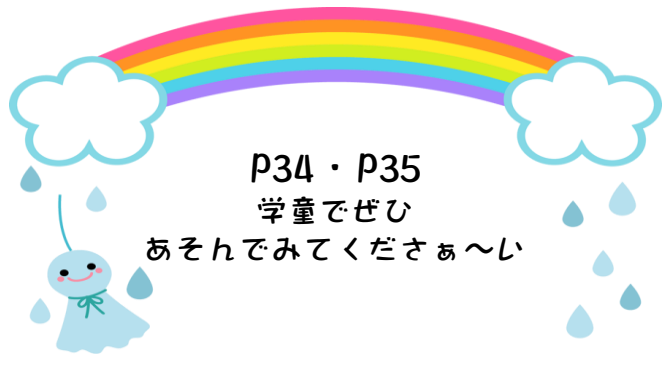


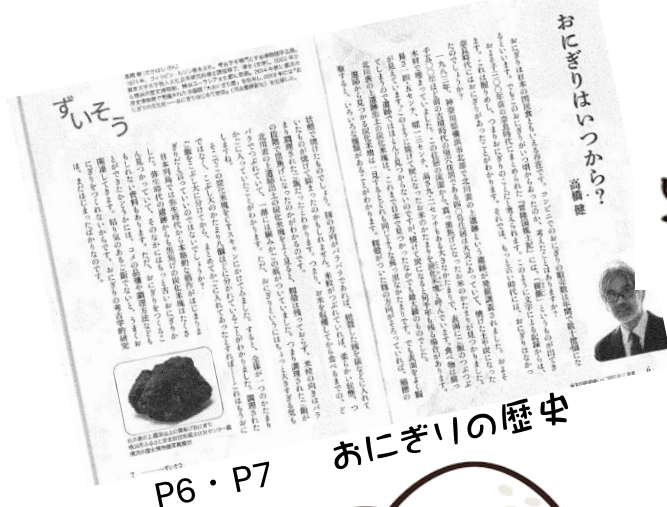
今月の特集

～子どもの気持ちに気づく～日々の関わりのなかで

オススメ

- | | | |
|-----|-----------------------------|---------|
| P10 | 子どもの気持ちは「わかる」でなく「気づく」もの | 赤木和重 |
| P14 | 気持ちを交わし、共に歩むことを願って | 三上芳里 |
| P17 | 子どもたちの一步を見守り、共によろこびあうことを願って | 青木美紀 |
| P21 | 子どもたち紡ぐ日々のなかで気づかせてもらったこと | 宮本すず |
| P26 | 子どもたち安心を育めるように | 長瀬幸千恵 |
| P31 | 子どもが気づかせてくれたこと | 読者からの投稿 |





P6・P7

おにぎりの歴史



おいしい♪ 楽しい♪ おにぎりを
P57~P59



第60回 全国学童保育研究集会まであと163日
学童保育を歴史的に考える
学童保育運動は「創り運動だ」

学童保育が全国各地に広がりはじめた頃、制度もなく、先行する保育実践がないなかで、保護者と指導員は、子どもたちのことを語りあい、自分たちの言葉で保育内容を語り、深めあってきました。

「学童保育は制度のないなかでの運動です。『新・増設』『改良改善』『内容向上』などの運動を一体のものとしてとらえ、要求者が下からの力で創っていくもの、この推進で『制度化』へとせまる運動だという意味で、学童保育運動は『創り運動だ』などというようになりました」（全国学童保育連絡協議会編『学童保育年報 No. 8』1985年、104頁）。

学童保育が児童福祉法に位置づけ、国や自治体の基準が定められたいまも、学童保育では、子ども・保護者・指導員が共に話しあい、日々の生活をつくっています。全国学童保育連絡協議会ではこれを「生活づくり」と呼び、三者が主体者として「共につくる学童保育」を大切にしています。

そして、全国研も、保護者と指導員が共に参加し、交流するなかでお互いの思いや願いに気づく場です。集会の詳細は、本誌 2025年7月号の巻末に綴じ込む予定のリーフレットをごらんください。

2025年10月25日(土) 全体会 福岡国際センター(福岡県福岡市博多区)
 10月26日(日) 分科会 福岡大学(福岡県福岡市城南区)、
 福岡大学附属若葉高等学校(福岡県福岡市中央区)

Adobe Stock | #267011627

「日本の学童ほいく」誌は、日本中の選抜された保護者、指導員、学童保育研究者の方々との編集会議をもとに、学童保育に特化して構成して作られた唯一の月刊誌です。福岡県連協は、この月刊誌を是非たくさんの方々の保護者、支援員、学童保育関係者の方々に読んでいただきたいと思います、見どころ「ひらいてみちゃりい」を配信することにしました。

毎月担当を変えて、それぞれの視点から見どころを紹介していきますので、ぜひ定期購読申し込みをお待ちしております。

申し込み先：福岡県学童保育連絡協議会
 TEL：093-662-6000 FAX：093-662-6006